金澤女學校長木村尙先生編

普通語
對照

金澤方言集

發行所　金澤　宇都宮書店

818 43 Ki181k

帝国図書館蔵書

国立国会
29.7.22
図書館

337308

序

方言は其の地の人が他郷で聞けば一種のなつかしい感を起させることもあるが、もと其の使用は讀んで字の如く一地方に限られるから廣く他の地方には通じがたい。一体言語は思想をあらはす要具であるからには、成るべく誰にも分りやすい普通語を用ふべきは勿論である。然るに我金澤の如きは由來方言の多い處で、今日かくまでに教育や交通の機關が備はつてゐるに拘らず尚昔時と大差がないのは甚だ遺憾である。こは畢竟久しい因習の結果でもあろうが、又人々があまり方言矯正の事を念頭にかけないからでもあらう。

余が管理する學校では嘗て方言矯正の手段として、まづ其の一斑に普通

語を對照し之を掲示して生徒の注意を促した。されど多くの方言を一々掲示するは至つて煩雜な事でもあり、且は他より希望もあつて、遂にこれを補足して冊子とすることにした、尤もあまり耳遠いものと卑陋なものとは一切これを省いておいたのである。固より杜撰たるを免れがたいが、若し之がため幾分か地方一般にも益する事が出來たなら望外の幸である。終りに述べておきたいのは方言の中につき意解の外間々その出所の考說を下した事である。こはたゞ筆のついでに添へたまでゝ、讀む人その當否によつて本文を是非されないことを希望するのである。

明治四十一年一月

編者しるす

序

昨春試に此集を編纂したところ、忽ち板本の拂底を告くるに至つた。こは市人が方言矯正に氣の附いた證據で、編者の大に滿足するところである。頃日書林より、頻りに增補第二版起稿の事を依頼されたから前版に訂正を施し、更に語數を增して梓に上す事とした。

明治四十二年七月

編者しるす

本集第一版に對する批評

○北陸新聞

今回當地に於て編纂發兌されし金澤方言集は普通語と方言とを對照したるもの金澤女學校長木村尚氏が精細なる調査に成り小冊子なれとも好く其要を得たるものなり著者は金澤の方言多くして教育も普及し交通も頻繁となれる今日尚未だ往時と大差なく其矯正に就かざるを憂ひ卒先して其學校に重なる方言と普通語との對照を掲示し以て生徒の聞苦しき言語を改めんと鋭意しつゝあり然ども無數の方言をば一々掲示する能はざるを以て今回之を編纂して冊子となしたるものなりと云ふ今此冊子を閲するに方言を二類に分ち第一類は根本的方言、又は疑はしき轉訛とし第二

類は發音の轉じたるものを集めたり而して五十音順に之を羅列したれば索引にも便利なり對照說明も簡明にして適切なれば教育上に裨益少なからざるべく各小學校は勿論苟も方言矯正に志ある者は一本を備ふるの必要あるべし

○北國新聞

南越の關門は儼として自然に北陸の咽喉を扼してゐる米原へさしかゝる旅客は冷かなる横目に北を見棄てゝ西よ東よと通り過ぎる北陸の夢は深うして自ら覺めやうともしない方言は全く文明に對してお慚しい遺り物である金澤女學校長木村尙氏の最近に編纂された此書は思ふに氏がより開けた他鄕からまだ昔年らの古里へ歸られての第一の感觸を筆にせられた產物でがなあらう先づ方言の根本的なると音韻の轉じたのと別々にせられた分類法も妥當で註釋考證の括弧も丁寧である之れが爲に氏の管せらるゝ學生の方言匡正に便なのは勿論であらうが更に世に擴まつて一般の人が之れをたよりに日常の言葉使ひを改める樣にならうなら蓋し編者望外の滿足であらう

凡例

一、方言に對照すべき適切な普通語の見付からないものは遺憾ながら之を省いたことは矯正の責任を重んじたのである

一、普通語は寧ろ標準語と言つてもよい穩當なものを擇んだのである

一、方言は成るべく語格的類推法を採つて語數の繁多を避けた

一、方言を二類に分ち第一類は所謂根本的方言又は轉訛の甚だしいもの疑はしいもの、第二類は普通語の音韻上轉訛の判然たるものを集めた

一、方言の註釋に括弧を附したのは考說で括弧を附しないのは意解である尤も意解は普通語と對照して意義範圍の分明ならぬものだけに施

したのである

一、一つの方言で二樣の意義あるものには之に對照する普通語を番號別に書きわけた單に句切りして二語以上を書き連ねたのは同意義のものである

一、方言の上に△印あるのは方言の意義の外にまた同品詞なる他の普通語と同意義にも使用して居るものである

一、方言の動詞は文語に準して活用するから文語の例に倣つて語尾部分の仮名遣を定めたが其の他の品詞の仮名遣は概ね發音のまゝに採つた

一、方言排列の順序は五十音順に從ひ撥音のんはむの音に、延音符を用

ふるものは延音の下の音に、促音符はつの音に據つた

一、略符の用方は次の如く定めた

○○は体言(名詞、代名詞)に代へたるもの

、、、は動詞に代へたるもの

●●●は用言(動詞、形容詞及び口語の助動詞た、う、ん、や「方言」)に代へたるもの

普通語對照 金澤方言集

第一類 方言

○あ ノ 部

普通語	方言
一、おだてる	あおだかす（あふぎたてるヨリ轉セシナラン）
二、かきまはす	わくたい（悪戯ヲ云フ（悪口ニテ答フル悪對ヨリ轉セシナラン）
いたづら	わくべたい
退屈な	わぐるしい
一、窮屈な	わじち
二、うるさい	わしめる
別家、分家	
あてにする	

わせない（動詞ノあせるヲ形容詞ニ轉セシナラン）
あっちゃこっちゃ（方向ノあちらこちらヨリ轉セシナラン）
あてがいな（あてがうたよーなノ意ナラン）
あば（年タケタル屋女ナドヲ云フ（阿婆ノ意ナラン））
あべあべと（水ヲ浴ブル如ク物ヲ濫費スルノ意ナラン）
あまむく
あんか
あんめに
あやまち（過チテ負傷スト云フ意ノ略語）
あをくさや

いそがしい、せはしい
うらうへ、反對
よいかげんな
婆さん
みだりに、むだに
あてがはづれる
あにさん、にいさん
一、あんまり　二、むだに
怪我
八百屋、青物屋

○い　ノ　部

いかなてて（如何な事かさて御挨拶に及びませんノ意ナラン）
いきぐしい（古語ノいきぐほろしヨリ轉セシナラン）
△いけ（池ト類似ノ点アルヲ以テ轉セシナラン）
いごくりわるい
いさぎい
いしな
いたぶる
いぢくらしい（いぢハ意地、くらしいハ苦しいノ意ナラン）
いちくれ
どういたしまして
うっとしい
井戸
一、いぢわるい　二、ひつかしい
派手な、立派な
小石
強請る
うるさい
日暮、夕方

いぢわるう（機會ノ悪シキ時ニ云フ（人ノ意地ニ擬ヘシナラン）） あいにく、をりあしく
いとそ（そハ麻ノ事ニテ麻糸ノ字ノ顛倒誦ナラン） 麻糸、苧
いんぎりと（場所ニ餘地アリテ人又ハ物ノ延ビヤカニ在ル意ニ云フ） ひろびろと、ゆっくりと
いんこま（いんハいぬノ轉訛ニテ狛犬ノ語ノ顛倒ナリ） 狛犬
いんじ、いんに 否、いふえ
いらして（人ヲ送ル時ノ呼聲） 左様なら
いらっし（目下ノ者ヲ招ク時ノ呼聲） おいで

○ゑ ノ 部

△、、、う（目下ノ者ニ對スル命令ノ意ニ云フ、一般ニ動詞ノ將然法ニ添フ、米來ノ口語助動詞うト同樣ニ用フ（希望ノ意ヨリ轉セシナラン）） 、、、なさい、、、よ

うざくらしい（烏蛇ノ樣ニ見苦シイノ意ナラン） いやらしい
うしなける（失なひ消える ノ意ナラン） 失せる
△うまそーな（生物ノ肥滿セルヲ云フ（食物ノ味ノ甘サニ擬ヘシナラン）） 肥えた、ふとった

○え ノ 部

えんぞ（下水流シナドノ小川ヲ云フ（江溝ノ意ナラン）） 溝
えんのした 軒下
えんばな をりあしい、ひょーしわるい

○お ノ 部

おいそ（遠磯？ノ意ナラン） 遠方、遠く
おいね（人ノ言フ事ヲ唯諾スルトキノ發聲） さうざう

おいねまた（方言おいれノ意ノ強キモノ）
おかっつぁん（轉訛ナラン）
おくもじ（大根ノ塩ヲ漬ケタルモノヲ云フ（お香もじヨリ轉セシナラン））
おこじょ（關東方言ノおこぜニ同ジ）
△おぞい（物事ノ不足ナル意ニ云フ（人情ノおぞいヨリ轉セシナラン））
おだわら（毛織ノひきまはしヲ云フ）
おちゃばやし（おちゃハ心ニナキ事ヲスルノ義ニテウハベノ囃シ立テト云フ意ナラン）お世辭、ごきげんとり
おてっぺに　氣兼なく、公然と
おどつけない　大層な、非常な
おとましい　惜しい

さうですとも
おかみさん
菜漬
刺虫
まづい
まんと

おんかいぼ（鬼瞥ヘ坊ノ意ナラン）
おんぼりと
おもや（建物ノ母屋ノ意ヨリ轉セシナラン）
おろかな（小供ノ性質ノ從順ナルヲ云フ（愚直ニ似タル所ヨリ轉セシナラン））

○かノ部

かいに　鬼ごと
かいぶし（小鰯ヲ素乾ニシタルモノヲ云フ）　一、惜氣なく　二、氣兼なく
がかい（嬰兒又ハ薄弱ナル品ガ物事ニ耐フル力ヲ云フ）　本家
かゝりいふ　すなはな、おとなしい
かぎなふ（人ノ手ヲ賴ミニスルヲ云フ）　一向、とんと
たつくり、ごまめ
力
からかふ
たのむ、借る

△かたい（方言おろかなニ似タリ（物がたいノ意ヨリ轉セシナラン））　おとなしい

かたがる（片あがるノ音便ナラン）　傾く

かたね（普通ノ腫物ヲ云フ（根ノカタキ意ヨリ轉セシナラン））　できもの

かたねる（肩にあげるノ略轉ナラン）　荷ふ

かたひち　不揃

△かつ（米ナドヲ搗ツノ意ヨリ轉セシナラン）　擊つ

がっさいな（合切（がっさい）ノ義ニテ取交ゼノ粗品ト云フ意ナラン）　まづい、粗末な

がっしり（轉訛ナラン）　確り

かな（織物ノ縑（かな）ヨリ轉セシナラン）　木綿糸

がま（我慢ノ意ヨリ轉セシナラン）　一、横着　二、ごまかし

△がんこな（物ノ堅牢ナルヲ云フ（人ノ性質頑固ノ意ヨリ轉セシナラン））　丈夫な、しっかりした

かんすいな　極少ない、まづい

かんば　頭瘡

△かわいらしい（物品ノ小ナルヲ云フ（小兒ノかはいらしいノ意ヨリ轉セシナラン））　小さい

○さ　ノ　部

●●●さ（疑問ノ意ニ云フ、口語ノ用言ノ終止法ニ添フ、又直ニ体言ノ下ニ附クルモアリ（かノ轉訛ナラン））　●●●ですか、、、ますか

●●●ざ（半濁口語ノ用言ノ終止法ニ添フ）　●●●ですよ、、、ますよ

ざしざし　旋毛

さな（口語ノ助動詞なヲ添ヘタル形容詞ナルヲ名詞トシタルナラン）　黄、黄色

さない（前項ノ方言名詞ヲ形容トシタルナラン）　黄な、黄色い

ぎみやい（對抗ヲ云フ）

きろくさいな

○く　ノ　部

△くさい（氣ニ適ハヌ意ニ云フ（臭氣ノ意ヨリ轉セシナラン））

△くさった（物ノ劣等ナルヲ云フ方言がっさいなニ同ジ（腐敗ノ意ヨリ轉セシナラン））

くどくらしい（物ヲクヅル樣ニ又ハ公事ヲ訴フル樣ニ苦シク言フノ意ナラン）

ぐす（方言がまニ同ジ）

ぐづる（ぐづぐづ言フコトヲ一ツノ動詞トセシナラン）

△くどい（言葉ノくどいノ意ヨリ轉セシナラン）

○け　ノ　部

けだつ（蹴立つノ意ヨリ轉セシナラン）

けつな（怪シノ義ナルけちヨリ轉セシナラン）

げっぱ（寫聲語ナラン）

げと（席次ノ下位ヲ云フ（下等ノ意ナラン））

げんざらしい（現在らしいノ意ナラン）

○こ　ノ　部

ごいされ（御意去れ？ノ意ナラン）

ごきみつに（商業以外他ヨリ金錢ヲ拂ヒ受ケタル時ノ挨拶ニ云フ（御厳密？ノ意ナラン））

こぐ（草木ヲ根扱ぎニスルヲ云フ）

こけ（苔ヨリ轉セシナラン）

張合

氣樂な、のんきな

つまらん

小言いふ

しはからい

踏繼、あしつぎ

をかしな

曖氣

下

一、目だって二、氣早い

御免なさい

お几帳面に、御丁寧に

扱く、根扱する

菌

こけら（ら ハ接尾語ナラン）　苔
こーこ　干大根ノ糠漬ヲ云フ（香の物ヨリ轉セシナラン）　たくあんづけ、たくあん
こじんばふる　強ねる
ごたんに（後段に添ふノ意ナラン）　おまけに、そのうへ
こっさ　焚附用ノ粘松葉ヲ云フ　松葉
こーばくな　小供ノ利口ナルヲ云フ　利口な
こまがき（細書ノ意ナラン）　一、眞書　二、水筆
こんね　物ヲ買ハントスル時店屋ノ人ヲ呼出ス詞　おくんなさい、おいでか
こーべ（一部ノ名ヲ全体ノ名ニ轉セシナラン）　額
ごろ　唖

337309

○さ　ノ　部

○○さ　目下ノ者ノ名前ノ下ニ附ケテ呼ブ（さまノ略ナリ）　「呼捨或ハさんヲ附ク」

●●●さかい（界ノ義ニテ書簡文ニ於ケル接續詞ノ間ニ同ジカラン）　●●●ゆゑに、●●●から

○し　ノ　部

じきがない　せはしい、おちつかん

しこーな（手際ヨキヲ云フ趣同ノ意ナラン）　うまい、たくみな

したって、したってまたれまた方言おいれ、おいしたって、ですとも、勿論ですしんがい　秘密的私有ヲ云フ　内證物

しんばれ（凍み脹れノ意ナラン）　霜焼

じゃーま　方言あばニ同ジ

じゃむ、じゃみる（轉訛ナラン）
しょむない（無味ないノ意ナラン）

○す　ノ　部

すいよりと（体ノ細ヤカニ延ビタルヲ云フ）
すれっこな（摺れっ兒ノ意ナラン）

○せ　ノ　部

せいだいと（精出してノ意ヨリ轉セシナラン）
せご（背ト甲トヲ合セシナラン）
せど（屋後ノ庭園ヲ云フ（背門ノ意ヨリ轉セシナラン））
せんば

止む、ながれる
一、水くさい、おまい二、つまらん
すらりと
不作法な
早く、いそいで
一、背　二、甲
庭
十能

○そ　ノ　部

ぞっぱいな（雜駄な？ノ意ナラン）
そめごり（裏廻鉢ノ略ナラン）

○た　ノ　部

たい（くださいノ略ナリ）
たいそい（大層ナ事ヲシテ疲レタノ意ヨリ轉セシナラン）
だいつな（方言いさごいニ同ジ）
だしかい（大事なものかい？ノ意ナラン）
だずる
たーた（他人ノ女ノ子ヲ呼ブ稱）

粗匆な
白魚
おくんなさい
つらい
構ふものか
怠る、なまける
嬢さん

△たちわい（方言いちくれニ同ジ）

たちまい　棟上

たんち（他人ノ嬰兒ヲ呼ア稱）　おかさん、小供さん

だんない（大事ないノ略轉ナラン）　つかへん、かまひません

だら（俗謠阿呆陀羅經ノ馬鹿ラシキヨリ語中ノ陀羅ヲ採リタルモノナラン）　ばか、あほ

●○○たらいふ（たらハとやらノ約音ナラン）　●●●○○とかいふ

△たるき（たるひノ轉訛ナラン）　氷柱

○ち　ノ　部

ぢぶぢ（ぢハ地ノ義ニテ床ナドヲ拭クヨリ轉セシナラン）　雑巾

ちんとしとる（動カズニ居ルヲ云フ）　ぢっとして居る

ちゃっと（方言せいたいとニ同ジ手早くノ轉訛ナラン）　仕抹がつく、かたがつく

ちゅーがつく（帳ぃつく？ノ意ナラン）　折々、時々

ちょこちょこ　少し

ちょっこし、ちょっこり

○つ　ノ　部

△つじ（多ク辻ナドニテ賣買ノ行ハルヽヨリ轉セシナラン）　市場

づたつ　腹掛

つばえる（頭髪又ハ庭木ナドノ先ヲ切ルヲ云フ）　刈り込む

づぶ、づぶで　少しも、まるで

づめな（綿密ヲノ意ヨリ轉セシナラン）　綿密な、丁寧な

つらます（轉訛ナラン）

○て　ノ　部

でかい

てきない（敵無クシテ張合ナキ意ヨリ轉セシナラン方言たいそいニ同ジ）

てしこい方言がんこなニ同ジ

てにもはれにも

てんご

てんにあふ

○と　ノ　部

●●●といね他ノ動作又ハ狀態ヲ人ニ傳達スル時ニ云フ（といふことよノ略轉ナラン）●●●（さうです　やうです

つかまへる

大きい

又とない

もてあそび、いたづら

間にあふ、役に立つ

どくしょーな（毒性ヶノ意ナラン）

とくずりかへる

●●●とこと（といふことだノ略轉ナラン）

どす

どできき（鈍な出來ヶノ意ナラン）

とどしきに

ととばす

どぶやど（どぶハ樣ニ似、やどハ宿スルノ意ニテ云フナラン）

どばす（どぶノ轉音ニ接尾語すヲ添ヘシナラン）、どすぼ

どまつく

情ない

ひっくりかへる

●●●ですよ

癩病、かったゐ

不出來

疾くに

嘴

糠漬

一、どぶ、下水溜二、溝

まごつく

どんど（擬聲語ナラン）

、、、とる（約音ナリ）

堰

○な　ノ　部

なかをり（モト當地ニ專ラ用ヒシ越中產ノ半紙ノ眞中ヲ折リシヨリ云フ）

半紙

、、、て居る

ながしまい（流しのまへト云フ意ナラン）

臺所

○○の「なに」（なにハ人名ヲ故サラニ疑問詞ニセシナリ）

○○の方

なんで數ノ接尾語トシテ一つなんでないノ如ク云フ

しか、ばか

なんてはや（なんてハなんといふノ轉訛ニテはやハ一種ノ感動詞ナラン）

なんといふ

なんば（南蠻椒？ノ略ナラン）

唐辛

○に　ノ　部

にがむ（轉訛ナラン）

握る、つかむ

には（家ノ入口ノ土間ヲ云フ（邸前ノ空地ナル庭ヨリ轉セシナラン））

玄關

にゃーにゃ（ねねや〳〵ト云フ呼聲ヨリ轉セシナラン）

ねえさん

○ね　ノ　部

ねぐさい（煮物ノ腐敗シカ、リテ臭氣ヲ帶ブルヲ云フ（煮臭いノ意ナラン））

臭い

ねまき（袖ノ附キタル被衾ヲ云フ（寢間着ノ意ナラン））

夜着

ねまる

坐る

ねんね（小供ヲ寢サスルニ唱フル語ヨリ轉セシナラン）

あかんぼ、小供

ねんねば（寢ル時ニ着ル服ヲ云フ（れんれハ寢ルノ義、ばハ着物ノ方言））

寢卷

○の　ノ　部

のた　岸ニ打寄スル波ヲ云フ

のはずな

のまえる　海ナドノ水ノ路上ニ汎濫スルヲ云フ

〇は ノ 部

ば　波

ばい、ばいた　するい、失敬な

はえ（木の生えたる處ノ意ナラン）　溢れる

ばぎ（まきノ轉訛ナラン）　着物

はくしゃ（寫聲語ナラン）　棒

はだこ（子ヲ？ノ意ナラン）　林

薪、割木

くさめ、くしゃみ

肌着、襦袢

はっしゃぐ（千せあがるノ轉訛ナラン）　乾く

はんか　數ノ接尾語、方言なんでニ同ジ　行火

ばんしょ（昔時番所ニ用ヒシヨリ名ツケシモノナラン）　半途、中途

はんちゃば　一、粗忽　二、蓮葉

はんば（仕事ヲ半端ニスルノ意ヨリ轉セシナラン）　乳母

ばんば（うばノ重音ノ轉訛ナラン）　早く、早う

はやうらと　らとハ一般ニ形容詞ノ副詞法ノ語尾ラニ添フ　わやまった、しぞこなった

ばらいた　大變だ

ばらや　上等

ばりばり

○ひノ部

ひがやすな　痩せた、かよわい
ひぶら　細把

○ふノ部

ふきつけ（吹キテ火ヲ附ケルノ意ナラン）　焚付
ふろだな　戸棚

○へノ部

べいや　一、「名ヲ呼ブ」（對稱）二、下女、女中（他稱）
へいろく　冗談、滑稽、お道化
へしない　待ち遠い

べたくらしい（色彩ノ濃厚ノ厭フベキヲ云フ（色ノベたりト見苦しいノ意ナラン））　しつこい
べっちゃりこい　平たい
へんばいな　生意氣な

○はノ部

はえ　柴、粗朶
ばこい　初心な、氣のよい
はそぐり（細繰ラノ意ナラン）　扱滯
はっちゃる（はふりやるノ轉訛ナラン）　はふる、うっちゃる
ばーや　一、「名ヲ呼ブ」（對稱）二、丁稚、小僧（他稱）

○まノ部

○○さそ方言○○ニ同ジ

△・・・・さいか
ヲ、詞其四人ノ他段ノ同意
ノ活語ヨ活ラ用行及ナ求メ
リ法変格行変ナ相
ヨ法ニ活ヲ除格動詞ス
ヤセシフ変ナ（疑問ル一終意
ヲ語ナ終ジ般止ニ法
ラ）ノ動ニ活ト

・・・さそら

・・・さそら
・・・さはら
動詞ニ添ハル法・・・さい（ふそろ
ニ同じ（ふそろ・・・・・か
・・・されど

・・・なそる

仕末

さつら（羅ひの・・・・・ふ
・・・さし命令ノ意ニ活ト
・・・・・ノ意ヨリ活ニ同ジセシ（命令ル法
・・・・・ノ意ヨリ動詞ニ添ハル法
・・・さつら（羅ひの・・・・・ふ

・・・なそら

・・・なそら

さて・・・な順ナ人ル家ヲ交ハ家ヲ言フ

○さ ノ 部

・・・さす

・・・さす

みてくれ（見リヨ・・・・・ノ意
△みとりない（容リ・・・・・ノ意ヨ

見場、見栄え

一、意地汚ない二、生意気な

○む ノ 部

むさしない（無セ・・・・・ヨリ幅

一、愛想ない二、手荒い

むけつしょな方言・・・・・ニ似ツキテ云フ

無愛想な

むけんばち（眉ナ間ヲ・・・・・ン鉢ノ

額

むさんこ（武ナ者ヲ・・・・・ン児ノ

むちゃ

むだける

繼れる

んなになる（・・・・・ナニ・・・・・ン

汚れる、いたむ

○め ノ 部

めとにする
めとんぼな（目のとぼけたノ意ナラン）
めまじ（まじろくニめヲ添ヘタルモノ、略ナラン）

○も　ノ　部

もったいしゃ（困レルトキノ感動詞）
ものい（物憂いヨリ轉セシナラン）

○や　ノ　部

○○や（指定ノ助動詞なりノ意ちゃノ轉訛ナラン）
や、やーや（應答ノ聲）
△やかましい（有名ナルヲ云フ（名ノ世上ニ噪シキ意ヨリ轉セシナラン））

見下げる
目うとい
またゝき、めばたき
どうしよう
だるい、だゆい
○○だ、○○です
はい
名高い、えらい

やくちゃむない
やど、やとづけ（方言どぶやどニ同ジ）
やまとぶろ（大和風爐？ノ意ナラン）
やんちゃな

○よ　ノ　部

よなが（夜長ニ供セシ間食ヨリ轉セシナラン）
よりむく（首ヲ縒リ向くノ意ナラン）

○ら　ノ　部

らい（時間又ハ場所ノ餘裕ヲ云フ）

○り　ノ　部

わけもない、途方もない
長火鉢
きたない
夕飯
振りむく
間、ゆとり

△りくつ（氣持ヲ云フ）

りくつな（ヨキ都合又ハ手際ヨキヲ云フ理窟ニ合ヘルノ意ナラン）

○わ　ノ　部

わしい（他人ノ男ノ子ヲ呼フ稱）

わやく

●●●わね

わらびしい（名詞わらべヲ形容詞ニ轉セシナラン）

○を　ノ　部

をーどな（横道ノ意ヨリ轉セシナラン）

氣分（きぶん）

うまい、たくみな

ぼーさん

一、冗談（じょうだん）　二、駄目（だめ）

●●●だよ

一、氣早（きばや）い　二、小供（こども）らしい

粗匆（そそー）な

第二類

方言

○あノ部

わくたい	わくたれ
わぐち	胡坐(あぐら)
わせかやす	ませかへす
あべる	あびる
わんやと	ありがたう
あらね	霰(あられ)

○いノ部

いくす（他ヨリ物ヲ與ルヽヲ云フ）　おこす、よこす
いちゃけな　いたいけな、かはゆい
いのく、いぐく　うぐく
いん　犬
いらさる、いらはる　入らっしやる、居なさる
いれな、いれんな　色々な

○おノ部

おとい　うとい
おばたい　おもい
おめれたう　おめでたう

おやっさん　おやぢさん

○かノ部

かえ　かよひ、通帳
かっつを　鰹
かてる　涸れる
かぶそ　獺
がんから　空虚
かんぢや　鍛冶屋

○きノ部

△きばる　配る

○け ノ 部

けなむさい

○こ ノ 部

こい

こそがず

●●●こっちゃ

ごっつと

○さ ノ 部

さーき

さふい

さなぐさい

聲

こそぐる、くすぐる

●●●ことぢゃ、●●●ことだよ

御馳走

先刻、さきに

さむい

○し ノ 部

しぐ

したき

じっくり

しと

しとつ

しぶる

しゅむ

しよ

しり

死ぬ

飛沫

ゆっくり

人

一つ

絞る

染む

塩

汁

○○しる

○す　ノ　部

すずめがひ
すづく
ずり

○せ　ノ　部

せいべん
せきだ
せん
せはしない

○○する

蜆貝
雫
橇

煎餅
雪駄
錢
せはしい

○そ　ノ　部

そそやく
そないに

○た　ノ　部

出して　さ行四段活動詞ノ連用法ニて、たノ添ハルモノ皆之ニ倣フ
だご
、、、たさいが
だっちゃかん
だやい

○ち　ノ　部

ささやく
其んなに

出して
團子
、、、た最後
埒あかん
だゆい、だるい

ちそ
ちびたい

○つ ノ 部

ついぼ
つくい
つくばり
つつ
△つむぎ

○て ノ 部

ていじん

紫蘇
つめたい

杖
机
支柱
槌
鵜
天神

●●●てて

○と ノ 部

どく
とっちり

○な ノ 部

なにか
なーむ
なめぐぢり

○ぬ ノ 部

△ぬける

●●●とて

退く
とっくり

七日
なにも
なめくぢ

にげる

ぬずく

○の　ノ　部

のやぎ

○は　ノ　部

はい

はがやしい

はちこる

はんげり

○ひ　ノ　部

△ひかる（當地方ノ人多クしーチひート訛ル癖アリ以下ノ數語ヲ見テ知ルベシ）

覗（のぞ）く

縫（ぬ）ひわげ

蠅（はえ）

はがゆい

はびこる

はんえり

叱（しか）る

△ひく

ひち

△ひつ

ひつこい

ひらべたい

○ふ　ノ　部

ぶきっちよー

ふくろびる

△ふしぎ

ふんじゅー

敷（し）く

七（しち）、質（しち）

室（しつ）

しつこい

平（ひら）たい

不器用（ぶきよう）

ほころびる

一、不審（ふしん）　二、普譜（ふしん）

不自由（ふじゆう）

ぶんのくび　ぱんのくぼ

○へノ部

へし　菱

べら　片

○ほノ部

ぼふ　追ふ

ぼんぼ　おんぶ

ほーちゃ　庖丁

△ほや車ノ單蓋ヲ云フ　幌

○まノ部

まい　前

まいめ　眉毛

まぶい　まばゆい

まんろくな　滿足な

○みノ部

○○みたいな　○○みたよーな

○むノ部

んな　みな

○めノ部

めざとな　目敏うな

めんちゃ　雌

○もノ部

もん（語ノ下部ニ云フ）　物

もよぎ　蒭黄

○やノ部

やっぱし　やっぱり

○ゆノ部

ゆーべん　郵便

ゆるっしゅー　懲勅ノ意ヲ人ニ傳托ハルトキニ云フ　よろしう

○よノ部

よしかかる　よりかかる

よすけむく　横向く

よて　得手

よぼる　呼ブヲ云フ　よぼふ

○らノ部

らぶ　烟管竹ヲ云フ　らおゝらう

○わノ部

わらすべ　藁稭

△わかす　考ヘ當テルヲ云フ　明す

○をノ部

をっさん
をんちゃ

をぢさん
をん
雄

十六

明治四十二年八月卅日印刷
明治四十二年九月一日發行

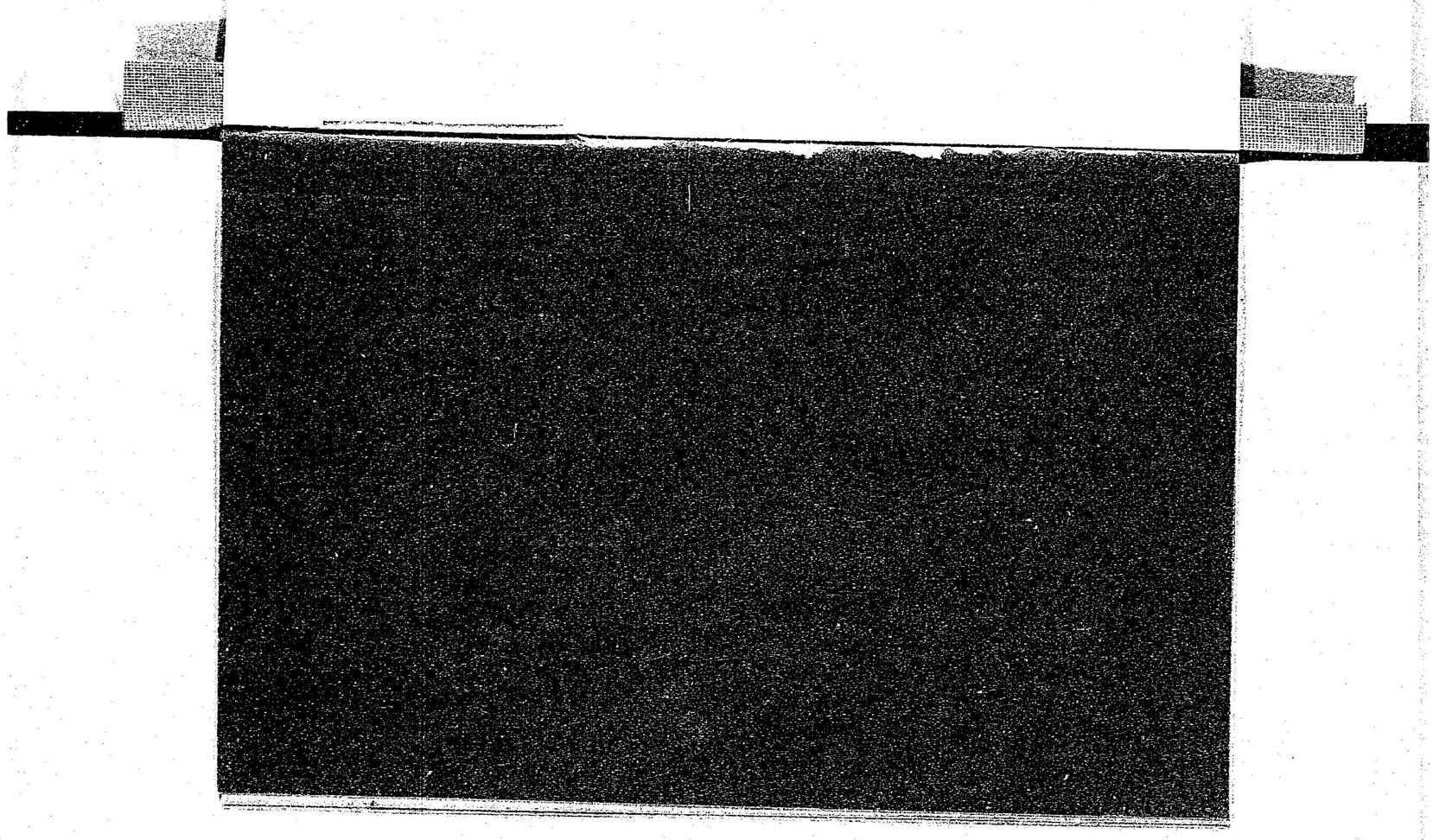
編者　木村尚

發行者兼印刷者　金澤市片町五十六番地　宇都宮源平

印刷所　金澤市高岡町九十番地　明治印刷株式會社

發行所　金澤市片町　宇都宮書店

不許複製



818.43
Ki181k

普通語対照

金沢方言集

国立国会図書館

081969-000-9

818.43-Ki181k

金沢方言集

木村　尚／編

M42

DAC-6973

法華經・諸經要集

發行所　株式會社　春秋社